



① 松雲堂書店

神保町古書店街の一番西の端にある「松雲堂書店」は、創業1890(明治23)年と、1世紀以上続く老舗である。中国文学や古典籍を扱う古書店。漢詩、漢文、和本、中国文学を中心に扱っており、店内には漢字の世界が広がっている。うすたかく平積みになされた古典籍が壁両側を占めており、貴重本が置かれているレジ奥の板の間には靴を脱いで上ることができる。これらの品々の仕入れはほとんど市場から。古典籍の専門店では珍しい女性店主の野田さんは、和本の修理を丁寧にこなす。

03-3261-6498
千代田区神田神保町3-1



② 高山本店

神保町のシンボルともいえる神田古書センターの玄関口に店を構えるのは、創業明治8年(1875)、この街で一番の老舗「高山本店」。能、狂言、歌舞伎、武道、料理などに特化した品そろえで有名な古書店だ。大作家との交流も深く、作家の求める資料を探し集め、提供する。特に司馬遼太郎は資料集めを当店に任せ、その買い方は豪快で周辺書籍を総集めしたため、「ある日、あるテーマの本が神保町からごっそり消える」という司馬遼太郎伝説も生まれたほど。

03-3261-2661
千代田区神田神保町2-3 神田古書センター1F



③ 山形屋紙店

創業明治12年(1879)、宮内庁御用達の和紙の老舗「山形屋紙店」。神田の大火(大正2)、関東大震災(大正12)、東京空襲(昭和20)にも耐え抜いた蔵がある。店内には、使い道を想像するのが楽しい"紙好き"にはたまらない各種製品がずらり。日本各地のさまざまな和紙、書道・絵画用和紙、千代紙、便せん、葉書、ポチ袋など、昔ながらの手法で漉いた和紙から現代的な和紙まで幅広い。当店でしか手に入らないオリジナル商品も扱う。渋い外観とは対照的に、店内は色とりどりの和紙が並び、ふんわりとした華やかな雰囲気だ。

03-3221-7829
千代田区神田神保町2-17



④ 揚子江菜館

明治30年代より神保町界隈には中国からの留学生が集う学校が点在。その周辺に多彩な中華料理店が根を下ろし、繁盛した。明治39年(1906)創業、"元祖冷やし中華"を生み出した上海料理店「揚子江菜館」もその1つ。蒋介石や魯迅も訪れたという歴史ある老舗店だ。昭和8年登場の古老肉(酢豚)は、キュウリやサツマイモも使う具材に驚くが、とりとした甘酢あかけの、最後は口に残らない甘さが病み付きになり、60年食べ続けたファンもいるそう。200gもある肉を使用した肉団子"ビック獅子頭"は、カレーとの相性も抜群。

03-3291-0218
千代田区神田神保町1-11-3



⑤ 一誠堂書店

古書店界の名門「一誠堂書店」は、明治36年(1903)創業の老舗。洋装本、洋書、古典籍(和本、巻物、古地図)など文化系書物全般を扱う。若手社員の意見で書棚に加わったのが映画・演劇の本だ。国内外の大学、図書館、美術館との取引も多い。「うちの柱は一般書、洋書、古典籍の3つ。売れなくなっても、どこかをやる考えはないんです。他店がやらなくなっても、うちがやっていればお客さんは来るでしょう。古本屋は持続が大事です」(店主)。値段の過当競争が業界に及ぼす影響を配慮し、HPへの商品掲載は一部にとどめる。

03-3292-0071
千代田区神田神保町1-7



⑥ 田村書店

仏独文学を中心にヨーロッパの哲学・歴史・美術に関する書籍、洋書の稀覯書を扱う専門店。入口両脇には神社の千社札のように、全集の値札がこれでもかと言わんばかりに、数限りなく貼られている。扱う全集の数が多すぎて、実物はお店の人に頼んで出してもらわなければならないほど。1階には日本の近代文学や、西洋の古典を中心とした翻訳もの、哲学書やその研究書、2階には洋書が並ぶ。蒐集家には料理本(原書)、挿絵本、美麗装丁本が特に人気。店頭では日本一質が高いと言われる特価セールが行われ、いつも多くの人でにぎわっている。

03-3291-0563
千代田区神田神保町1-7



⑦ 玉英堂書店

「玉英堂書店」は希少で優れた貴重な「稀覯本(きこうぼん)」の専門店。明治35年(1902)に本郷湯島天神下で古本兼貸本業として開業し、大正15年、神田神保町に移転。そして「オリジナルだけが持ちうる筆跡、装丁、紙質により作家が生きた時代に近づきたい」(店主)との思いで昭和55年、2階に稀覯本と自筆物の"特選ルーム"を開設。室町後期の源氏物語絵巻、良寛の書、司馬遼太郎の肉筆原稿など、文学史・美術史で知る名前がひしめく、密度の濃い光景だ。観覧自由。目録は年3~4回発行。

03-3294-8044
千代田区神田神保町1-1



⑧ 八木書店 古書部

創業は昭和9年(1934)、「八木書店 古書部」は上代から近現代までの日本文学を扱う。歴史的に極めて価値の高い本の影印本、近代文学の初版本や草稿、自筆物の充実が特徴だ。その一例、正倉院で千年以上保管されている文章を精密な写真と印刷、劣化の少ない中性紙で再現する「正倉院古文書影印集成」は研究者垂涎的。管理システムに先端技術の導入や、新刊書のバーゲンブック(特価本)など業界先駆けの取り組みでも知られる。年に2回、近代文学の魅力を深める特別講座を開催(参加無料)。目録は1月、10月の年2回発行。

03-3291-8221
千代田区神田神保町1-1



⑨ 大屋書房

明治15年(1882)創業の「大屋書房」は、江戸時代に刊行されたあらゆるジャンルの出版物を扱う。江戸文化の息は明治中期の1900年頃までおよぶため、同店の取り扱いも厳密にはその辺りまで。和本のほか、江戸時代の古地図、浮世絵、幕末・明治の古写真も扱う。神保町に170店ほどある古書店の中でも、「時代」で括る品ぞろえは非常に珍しい。美術館でガラス越しに見るような本や絵を、実際に手にとることができる。京極夏彦の小説に登場する妖怪が載った和本も多数。

03-3291-0062
千代田区神田神保町1-1



⑩ 三省堂書店

明治14年(1881)、近代化への胎動の真っ只中に古書店として誕生した「三省堂書店」。全国で知られる大手書店の本店が神保町にある。本好きが集まる知の殿堂、その売り場面積は約1,000坪。本の町・神保町のランドマークとして豊富な在庫をそろえる。サービスカウンターでは店員が本探しを手助けしてくれる。巨大な"デパート"をぶらりと散策するもよし、プロの手を借りて探している本を一発探索するもよし、さまざまに楽しめそう。作家のサイン会、著者による講演会などイベント情報はホームページに掲載。

03-3233-3312
千代田区神田神保町1-1



⑪ ランチョン

明治42年(1909)、神保町交差点近くに店を構えて以来、"下町の洋食屋"をうたう「ランチョン」。客は古書店街で買ったばかりと思われる本を開き、本あさりや乾いた喉をうるおすビールと、ビールに合う料理でくつろぐ。開業当時に洋食店はまだ珍しく、単に「洋食屋」で通ったそうだが、駿河台の音楽学校(現・東京芸術大学)の学生が「ちょっと気取ってランチョンはどうだろう」と提案したのだとか。ランチョンとは軽い昼食のこと。ビーフシチューを片手で食べられるように工夫したビーフパイや、カツサンドが人気。

03-3233-0866
千代田区神田神保町1-6



⑫ 亀澤堂

明治38年(1905)創業の和菓子店「亀澤堂」は、大正から昭和初期にかけて暖簾分けした店が10数軒を数えたという老舗。最良の素材から身近な和菓子を作ることにこだわる。一番人気は、毎朝手作りする豆大福(9月中頃~5月末日販売)。北海道産の鶴娘大豆、宮城県産のみやこがね米、鬼双糖を使った甘すぎないさわやかな味にファンが多い。どら焼き、れもん飴、とろける水ようかんもおすすめ。豆大福は数量限定数のため、売切れの場合もある。来店前に電話でとり置きをお願いすることも可能。

03-3291-1055
千代田区神田神保町1-12-1

